

事業所における自己評価総括表（公表）
（保育所等訪問支援・在籍園との連携）

事業所名	伊豆市児童発達支援センター
保護者評価実施期間	令和7年2月25日～令和7年3月7日
保護者評価有効回答数	（対象者数） 4名 （回答数） 4名
従事者評価実施期間	令和7年2月25日～令和7年3月7日
従事者評価有効回答数	（対象者数） 7名 （回答数） 7名
利用児在籍園評価実施期間	令和7年2月25日～令和7年3月7日
利用児在籍園評価有効回答数	（対象者数） 5園 （回答数） 5園
事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月11日

分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児全員が児童発達支援事業所の利用児であることから子どもの状況にあった支援の提供・提案ができる	児童発達支援利用の保護者の方には同時に保育所等訪問支援の契約をしていただき、在籍園と連携した支援が行えるよう努めている	今後も連携を図るため併行通園児には、保育所等訪問に契約もお願いする 保護者の訪問依頼について周知する
2	公立園の職員は自身の支援スキル向上のため、利用児と同じ日に同行している。事業所での様子を園に持ち帰り他の職員と共有するとともに統一した支援の提供につながっている	子どもの実態把握及び支援方法の共有のため、振り返り（反省会）へも参加してもらっている	園との日程調整 私立園の職員も希望があれば受け入れていく
3	私立園とは、連絡ノートを通してそれぞれの場所での様子や支援の方法等を知らせ、連携をとるようにした。保護者とも共有できた。	園、家庭、事業者がそれぞれの場での様子を共有、共通理解できるようにしている	必要に応じて家庭での様子も記入してもらえよう依頼していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考える課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園と事業所との日程にすり合わせがうまくできず、訪問回数が少なくなっている	訪問する職員の確保 園との日程調整	訪問支援員の訪問日の固定化 年間で訪問日を計画し実施する